



まなびやまと



No.13

平成20年(2008年)2月
大和市教育委員会

教育長就任あいさつ

教育長 山根英昭



また遊んでもいいから、今は静かにしようね。」と、その場の状況や指示の理由が分かる言い方をするでしょうか。

最初の言い方は、子どもに反射的な行動を起こさせますが、考える余裕を与えないため、状況を把握する力や自律心、言葉の育成には向いていません。後者は、状況が分かり、今後の行動の見通しも立ち、言葉の細やかな聞き分けや使い分けもできて、思いやりを育てるのに向いています。

思いやりは、理解、共感、行動で成り立つと言います。自分がこんなことをしたら相手はどう思い、どうなるか、相手のしなことが自分にどんな影響をもたらしたか、といったことを理解させるようにしつけることが望ましいのです。

「思いやりの心を育てる言葉づかい」にご留意いただければ、ありがたいと存じます。

平成十九年十月一日付けで教育長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願いいたします。子どもたちには、心豊かで思いやりのある人になってほしいと願っております。子どもは親や大人の映し絵と言いますから、家庭・学校・地域の大人の子どもへの接し方や生き方が重要な鍵となります。例えば、電話をかけている時に、そばで騒ぎながら楽しそうに遊んでいる子どもがいたとします。その時に、「うるさい、やめなさい。」と命令的な言い方で注意をするでしょうか。それとも、「電話が終わったら、

市内小学校の研究発表会から

昨年十一月に、市内小学校三校の研究発表会が行われました。今日的な教育課題である「コミュニケーション能力の育成」や「情報教育の推進」など、各校が取り組みの成果を発表しました。

桜丘小学校

「意欲的に学ぶ、心豊かな子どもをめざして」

十一月二十二日には、桜丘小学校が、教育課題研究推進校として、三年間の研究成果を発表しました。



5年生の国語の授業

言語活動を通じたコミュニケーション能力の育成をめざし、国語科を中心に「話すこと」「聞くこと」を重点とした授業

実践を進めてきました。聞き方・話し方のめあてとして「話し合いの達人」という具体的な目標を作成し、さまざまな教育活動で、意識して取り組ませるとともに、家庭の協力を得て、コミュニケーションの機会を増やすことで、一層学習効果を上げました。当日は、全学年クラスが公開授業を行いました。子どもたちの生き生きと発言する姿が印象的でした。



高木まさき先生

全体会では、各学年の取り組みが説明された後、研究の指導にあたった横浜国立大学教授高木まさき先生の講演が行われました。高木先生は「言葉には、伝え合う力である『つながり力』と『立ちどまって考える力』の二面性があります。言語活動としてどちらもしっかり身に付けさせたい。また、教師の発する言葉は、子どもにとっての言語環境の一つ。国語の授業はとても重要なのです。」と語りました。

福田小学校

「一人ひとりの学びを
高める情報教育を
めざす」

市内小中学校二十七校（校舎建て替え中の光丘中を除く）では、コンピュータ教室のパソコンが新機種に入れ替えられ、小学校にも「一人一台」の環境を整えるため、四十台のコンピュータが設置されました。その他の情報機器も、次々と導入され、子どもたちは、それらを効果的に使って、学習をしています。



4年生の発表

業研究を進め、積極的に情報機器を活用した学習を展開してきました。子ども

たちに六年間で育てたい力を明らかにした「情報教育計画」を作成し、年間計画に位置づけて実践しました。



5年生が資料画面を前に話し合う

低中高学年別の分科会の後、研究の指導にあたった横浜国立大学准教授 加藤圭司先生の講演が行われました。



加藤圭司先生

加藤先生は、「情報機器は、「慣れ親しむ」ものではなく、「学びの環境」です。積極的に日常の授業に位置づけることが必要です。言葉と体験をつなぐ映像表現のよさを十分活用することにより、子どもたちの学びを高め、学力を保証していきたい。」と語りました。

林間小学校

「豊かな心の育成を
めざす」

十一月三十日には、林間小学校が教育課題研究推進校として、研究の中間発表を行いました。

コミュニケーション能力の育成を重視し、「言葉や動作で伝えながら聴こう」「目と耳と心で聴こう」を目標として、授業実践を行ってきました。国語科の「話す」「聞く」「話し合う」領域で学年ごとの重点目標を決めて計画的に授業を進める中で、特に「聞く（聴く）」に重点をおき、教育活動のあらゆる場面で取り組んできました。



6年生の国語の授業

子どもたちが、友だちの意見をよく聴いて自分の意見をまとめいく様子や、生き生きと話し合う様子が印象的で、二年間の学習の成果が現れた授業でした。

授業後は、二学年ごとの分科会が行われ、各学年の取り組みが説明されました。「授業」「日常の活動」「地域とのかわり」のなかではくくまれてきた、互いの良さを認め合う気持ちや地域の人のふれあい「心のキャッチボール」の様子が報告されました。平成二十年度には三年目の研究に取り組み予定です。

上和田小学校 「ロボット実験教室に 参加」

十一月二十九、三十日に、上和田小学校の五、六年生は、日本IBM主催の「実験教室ロボットを作った動かそう」に参加しました。この事業は、市内小中学校を対象に、子どもたちに科学・技術の面白さを伝えようという目的で行われています。

「エンシニアとは？」をテーマに、社員ボランティアの講話やプログラミングによるロボット操作などを体験しました。自分で組み立てた自動車型のロボットをパソコンで制御しながら、頭と手を使ってプログラミングの基本的な仕組みを学びました。



プログラムでロボットを動かそう

子どもたちは、「エンシニアがいるから、世の中はどんどん発展していく。ほくもこういう人になりたい。」「ロボットを動かすプログラムを考えることが楽しかった。失敗した原因を見つけて、動かすことに成功した達成感、これができるから次もできるという自信とやる気を出してくれます。」などの感想をもちました。

なお、同社の社会貢献活動の一環として行われた今年度の取り組みには、上和田小学校のほか、大野原小学校六年生とつきみ野中学校も参加しました。

豊かな感性をはぐくむ 中学校文化活動

毎年、十月から十一月にかけて、市内の全中学校で、合唱の発表会が行われています。生徒たちは歌うことの楽しさを味わうとともに、合唱の練習を通して、友だちとの豊かななかかわりや思いやりの気持ちをはぐくんでいます。練習

は、夏休み後の二ヶ月の間に、集中して取り組みます。

十月二十七日、渋谷中学校では、創立六十周年記念（第八回）文化発表会が行われました。

午前は、合唱コンクール、午後は教科の発表が行われ、各教室や総合学習スペースでは、さまざまな作品が展示されました。

合唱コンクールでは、発表前に、クラスごとに、合唱練習に取り組んだ苦労や演奏するにあたっての決意が語られました。

特に三年生は、特別の感慨を込めてコンクールに臨み、三年二組が最優秀賞を獲得し

ました。生徒たちは「失敗したらどうしよう」と心配しながら、みんなでステージにあがるとそんな不安は消えてしまいました。今までの練習と、みんなを信じました。最優秀をとることができて、本当にうれしかった。奇跡が起きたとみんなが泣きました。「曲は難しかったけれど、みんな乗り越えてきました。『中学校文化連盟』の芸術祭では、渋谷中の代表として、最高の『蒼鷺』を歌いたい。」と、語りました。



合唱コンクール



PTA・教職員の合唱

プログラムの最後には、奈良校長の指揮で、PTAと教職員が合唱を行いました。生徒たちの手によ

って金と銀のくす玉が割られたときには、六十周年のお祝いは、最高潮に達しました。保護者や多くの卒業生に支えられたすばらしい会となりました。

また、教室や総合学習スペースでは、家庭科や美術科で作った作品や、新聞、感想文など、日ごろの授業や活動の成果が展示されました。生徒たちの力作を前に、楽しそうに見学する保護者の姿が見られました。



美術作品の展示

神奈川県公立中学校文化連盟

大和支部芸術祭

十一月八日～十日、「神奈川県公立中学校文化連盟大和支部芸術祭」が開催されました。

八日（木）には、保健福祉センターで「英語大会」が行われました。「英語暗唱の部」と「イングリッシュ・パフォーマンスの部」があり、暗唱の部では、すばらしい表現力が、大和中学校の萩原愛実さんが最優秀に選ばれました。

また、イングリッシュ・パフォーマンスの部では、歌、演劇、群読など、楽しい英語活動の様子が発表されました。



英語劇を発表する
光丘中 The Bell's Boys

どの生徒も、日ごろの学習の成果を発揮していました。

九日（金）には、生涯学習

センターで「音楽会（クラス合唱の部）」が行われました。各校のコンクールや発表会から選ばれた代表がすばらしい歌声を披露しました。合唱、指揮者、伴奏者の三者の息がぴったりと合った豊かな表現力とハーモニーに、参観者から、大きな拍手が送られました。

発表後、県合唱連盟の副理事長、平井保さんから講評がありました。平井さんは「皆さんの歌声からエネルギーをもらいました。合唱を楽しむ機会を生かして、音楽を楽しむことを続けてほしいと思います。また、自分が歌うだけでなく、聴いている人も感動させ、楽しませることができると音楽を創ることを心がけてください」と語りました。

十日（土）には、「音楽会（部活動の部）」が行われました。合唱部、民族芸能研究（和太鼓など）部、ギター部吹奏楽部が、日ごろの練習成果を披露しました。各部とも、曲目などに工夫を凝らした、楽しい演奏を繰り広げ、自然に手拍子が生まれるなど、和

やかな雰囲気の中で、演奏が行われました。



吹奏楽部の演奏

また、九、十日の両日、生涯学習センターのフロアでは、各校の美術作品が展示されました。本物そっくりの「ダンボールアート」やオリジナルの「印鑑」など、生徒たち一人ひとりのアイディアや工夫が生かされた、見応えのある作品ばかりで、多くの参加者は感心して見入っていました。生徒たち一人ひとりがもつ豊かな才能を応援していきたいものです。



本物そっくり!!!
驚きのダンボールアート

学校は地域の避難場所

中央林間小学校校区防災宿泊体験

十一月十七日、十八日に、中央林間小学校で、防災宿泊体験が行われました。これは、学校と地域が一体となって災害時の訓練を行うためのものです。中央林間小学校保護者・児童・教職員と自治会会員など、総勢百五十人あまりが参加しました。

まず、災害時に一時避難場所になっている地域の公園から、指定避難所である中央林間小学校に移動する訓練をしました。どのようなルートを通ると安全か、車いす等を使って移動したりするためにはどのようなことに注意したらよいかを体験しながら学びました。学校へ戻ってから、自治会ごとに、ルートや危険箇所を確認しました。



安全な道を選んで誘導する



4階から下りる



炎をめぐって薬をまく

に取組んでいました。卵の殻踏みは、地震等で壊れたものが床に散乱したときに、どのくらい危険であるかを再現したものです。殻は、踏んでもそれほど痛くはないものの、地震が起きたときの大変さ、怖さが少し感じられたようでした。



床に飛び散ると危険だね

実際に大きな災害が起こったとき、学校には、たくさんの方が集まります。一度に殺到したら、負傷者が運ばれて来たら、さまざまな場面が想定されます。そこで、市の職員、学校関係者、保護者・地域の人が、実際にどのような行動するかをシミュレーションしました。地域の力が試される訓練でした。



シミュレーションの様子

待ちに待った夕食は、アルファ米と豚汁でした。取り組み三年目を迎えたこの防災訓練には、地域にあるお店からたくさんのおみやげや飲み物の提供がありました。本番さながらの炊き出しによる温かい夕食に、参加者は、ほっと一

息つきました。夕食後、大人の参加者は、災害ボランティア活動について考える時間をもち、子どもたちは、ボランティアネットワークの指導で、「新聞紙スリッパ」や「簡単カンテラ作り」に取り組みました。身近な材料を使って、災害時に役立つ、便利な小物が簡単にできるという体験に、子どもたちも夢中になって取り組みました。



アルミ缶で、簡単カンテラ作り



新聞紙で作るスリッパ。新聞紙はいろいろ活用ができる優れものです。

災害時に地域の避難所となる学校のあり方を考えるよい機会となりました。

「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽にお読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。